

ジブチ月例報告 (2024年12月)

在ジブチ日本国大使館

【内政】

- 12月11日、ディレイタ国民議会議長のもと、第2期通常国会の第2回公開会合が行われ、2023年度最終予算、2024年度補正予算、2024年から2030年までの国家ジェンダー政策等、多くの主要法案が採択された。また、国立障がい者庁、ジブチ地熱エネルギー開発事務所、国家情報システム庁等の公的機関の財務会計が承認された。
- 12月26日、ジブチ市評議会の特別会が開催され、ジブチ市の2025年暫定予算が採択された。市の暫定年間予算が採択されるのは初めてであり、財政資源の市による自律的な管理に向けた動き。
- 12月30日、第2期通常国会の第3回公開会合が開催され、地域統合を促進するCOMESA、EAC及びSADCの拡大自由貿易圏協定(TFTA: Tripartite Free Trade Agreement)、予算の優先事項を確定する2025年財政法案等の4法案が可決された。

【外政】

- 12月4日、ゲレ大統領は、ジブチを訪問中の中国・全国人民代表大会常務委員会のザン(H. E. Zhang Qingwei)副委員長と会談を行った。ゲレ大統領は、ジブチの開発指針やジブチが望む中国との戦略的パートナーシップについて説明を行った。ザン副委員長は、「今回のジブチ訪問が中国・ジブチ両国間のパートナーシップに真の戦略的再指針もたらす可能性が高い」と述べた。
- 12月13日、ユスフ外相は、アディス・アベバで開催されたAUC委員長立候補者討論会に参加した。ユスフ外相は、「当選した暁には、アフリカの声を高め、国連安全保障理事会に公正な代表権を要求し、アフリカの潜在力を真の力に変えることを誓う」と述べ、「私たちが望むアフリカは、平和、統一、繁栄のアフリカである。この夢は実現可能であるが、それには政治的な意志と国民の連帯が必要である。」と締めくくった。
- 12月18日、アブドゥルカデル首相は、ファーウェイと深セン・エネルギー・グループの代表団と面会し、ジブチ企業であるProxy Groupeが同席した。目的は国のエネルギー部門を変革するためのパートナーシップについての議論であり、5G、海水淡水化、太陽光発電等が取り上げられた
- 12月20日及び21日、マクロン仏大統領がジブチを訪問し、ゲレ大統領との間で協力強化に関する協議を行い、叙勲された。同大統領は、駐ジブチ仏軍を仏のアフリカにおける軍事政策のハブとすることを発表したほか、ジブチ第2空港建設

構想、宇宙開発に関する意図表明書に署名した。

● 12月23日、ロシアのクラフツォフ（Serguey Kravstov）教育大臣がジブチを訪問した。アブドゥルカデル首相、ユスフ外相等と面談を行い、国際場裡におけるジブチのバランスのとれたロシアへの対応に謝意を示したほか、国民教育・職業訓練省の高官等とのワーキングランチでは、ロシア語をジブチにおける外国語教育に組み込む可能性、今後の文化交流等について議論された。

● 12月29日、エチオピアのゲディオン（Dr Gedion Timothewos）外相が2024年10月の就任以降初めてジブチを訪問し、ゲレ大統領及びユスフ外相と面談を行った。これらの面談では、地域の安定化及び二国間のパートナー関係の強化等について議論が行われた。

● 12月29日、ソマリアのハッサン（M Hassan Cheikh Mahamoud）大統領がアブドゥルカデル（M. Abdulkadir Mohamed Nur）国防大臣、サラド（M Salad Ali Jeleh）駐ジブチ・ソマリア大使等を含む代表団とともにジブチを訪問し、ゲレ大統領と面談を行った。本訪問は、AUソマリア移行ミッション（ATMIS）の終了及びAUソマリア支援安定化ミッション（AUSSOM）の開始に伴う一連の地域訪問の一部として行われ、本件について両大統領間で議論が行われた。

● 12月30日、ハディ港湾・フリーゾーン庁長官はフー・ビン（M. Hu Bin）駐ジブチ中国大使と面談し、2024年9月に開催されたFOCACのフォローアップを行った。二国間の効率的な経済成長を可能にする、エチオピア・ジブチ間の鉄道により良い管理方法についても話が及んだ。

【経済・開発】

● 12月11日、ジブチ商工会議所の会頭選挙が行われ、ユスフ（M. Youssouf Moussa Dawaleh）会頭が再選された。

● 12月16日、ゲレ大統領は、ジブチフラン導入75周年の記念式典に参加した。同式典には中央銀行総裁、経済・財政大臣等が参加し、ゲレ大統領の演説では、大統領の制のジブチフランが経済の安定化及び発展に果たした役割並びに今後の経済の多角化の必要性等が強調された。

【保健・衛生・社会】

● 12月1日、保健省において、IGAD、EU、ドイツ国際協力公社（GIZ）によるIT関連機材の引渡し式が行われた。今回、コンピュータ、サーバー、ソフトウェア等が提供され、これらにより保健省のデータの質の向上や疾病監視強化、地域間協力の強靭化が期待される。

● 12月9日から1週間にわたり、中国病院船「平和の箱船（Arche de la Paix）」がジブチに停泊し、5800人以上に医療サービスを提供した。ジブチ滞在中には、

ジブチ軍との保健活動や地域社会との文化交流も行われた。

● 12月15日、ゲレ大統領は、タジュラに建設された Bourhan Mohamed Aref 地域病院の落成式に出席した。挨拶に立ったゲレ大統領は、「同病院は、単なる建築プロジェクトではない。それは、どこに住んでいるかにかかわらず、すべてのジブチ人が質の高い医療を受けられるようにするという、我々の集団的コミットメントを体現するものである。公衆衛生は、国全体の包括的でバランスの取れた発展という私たちのビジョンの優先事項であり続ける」と強調した。

● 12月28日、ジブチオリンピック・スポーツ委員会（CNOSD）の委員長として、現職のアイシャ（Archa Garad Ali）委員長が再任された。

【軍事・治安】

● 12月5日、ジブチ港湾・フリーゾーン庁は、欧州のアスピデス作戦の下、紅海上で深刻な浸水トラブルに見舞われたコンテナ船・ISA STAR の救助活動を行った。乗組員20名は全員救助され、ジブチ港へ移送された。

【日本関係】

● 12月3日、東京において、ジブチ道路公社（ADR）と株式会社フジタとの間で、パルマレ橋梁建設案件のコントラクター契約に関する調印式が行われた。

● 12月3日にジブチ大学において、また、12月4日に外交研究所（IED）において、篠田・東京外国語大学教授が日本の平和国家としての歩みに関する講演を行った。

● 12月7日、ジブチ沿岸警備隊本部において、日本が供与した35m級警備艇2隻の引渡し式が行われた。引渡し式には、本プロジェクトに関わった墨田川造船所及び水産エンジニアリング株式会社の関係者らが出席した。

● 12月8日から12日にかけて、矢野顧問（アフリカ開発協会会長）、新井会長（元駐ジブチ大使）をはじめとする日ジブチ友好協会の代表団がジブチを訪問し、ゲレ大統領をはじめとするジブチ政府関係者との会談や自衛隊拠点の視察を行った。特にエネルギー分野・保健分野における日ジブチ協力の可能性について議論が交わされた。

● 12月17日、原大使は日ジブチ友好協会の訪問に合わせて帰国していたビレ在京ジブチ大使とワーキングランチを行い、同協会訪問のフォローアップ事項等について確認を行った。

● 12月18日、原大使はドステル（Mme Beate Dastel）当地UNICEF代表とともに、アワレ農業・漁業・畜産業・水資源大臣を往訪し、ジブチの水資源開発に関する意見交換を行った。

● 12月19日、原大使はJICAの支援で設立されたジブチ大学化学研究所の開

所式に出席した。生態系緑化の可能性評価のための革新的かつ持続可能な水利用方法に関するこのプロジェクトは、砂漠化対策と地域環境改善への貢献を目指すもので、高等教育大臣、ジブチ大学学長等が参加した。

● 12月25日、大島臨時代理大使とユスフ外務・国際協力大臣との間で、11億円を供与額とする令和6年度OSA（政府安全保障能力強化支援）案件に関する書簡の署名・交換が行われた。本案件を通じて、ジブチ海軍に対して沿岸監視レーダーシステム及び関連インフラが供与される。

（了）